

那須塩原駅周辺 まちづくりビジョン

令和3年(2021)年3月 那須塩原市





ユールなすしおばら

夢が動き出すまち



那須塩原駅

ようこそ
未来の
那須塩原



～まちづくりについて考えた ある父と娘の会話～



プロローグストーリー制作：令和2年度宇都宮大学地域プロジェクト演習メンバー



あなたの描く那須塩原駅周辺の未来はどんな未来ですか？

那須塩原駅周辺 まちづくりビジョン

令和3年(2021)年3月 那須塩原市



まちづくりについて考えた～ある父と娘の会話～

はじめに	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定に当たり	1
第 1 章	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの位置付け	2
1-1	策定の背景と目的及び目標年次	2
(1)	ビジョン策定の背景	2
(2)	ビジョン策定の目的及び目標年次	4
1-2	ビジョンの位置付け	5
第 2 章	那須塩原駅周辺の課題	6
第 3 章	ビジョンの基本コンセプト (30年後の目指すべきまちづくり)とビジョンプロジェクト	8
第 4 章	ビジョンプロジェクト	10
プロジェクト 1	市民が愛し誇れるまち	10
プロジェクト 2	歴史・文化を感じるまち	12
プロジェクト 3	個性を感じるまち	14
プロジェクト 4	自然とテクノロジーが調和するまち	16
プロジェクト 5	新たな行政の在り方を示すまち	18
プロジェクト 6	時代に選ばれるまち	20
プロジェクト 7	人と共に成長するまち	22
第 5 章	プロジェクトの実現に向けて	24
5-1	スケジュール	24
5-2	ビジョンの具体化に向けた方向性	25
第 6 章	ビジョン策定に当たっての市民参画の経緯	26
6-1	ビジョン策定までの経緯	26
6-2	市民参画の状況	27
結 び に	那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定を終えて (市民懇談会から未来へのメッセージ)	30
附属資料		33
(1)	那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会委員名簿	34
(2)	那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議委員名簿	35
(3)	宇都宮大学共同研究メンバー名簿	35
(4)	宇都宮大学地域プロジェクト演習メンバー名簿	35
(5)	グループインタビューの様子	36
みるひいクイズ答え合わせ		38

はじめに

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンの策定に当たり

那須塩原市は、心豊かな人々が暮らし、美しい自然に恵まれた高原都市として、基幹産業である農業や観光業を中心に、商業、工業など多様な産業が営まれるとともに、国道4号、東北縦貫自動車道といった道路やJR宇都宮線、JR東北新幹線といった鉄道が通る交通の要衝であり、恵まれた環境を背景にこれまで一步一步、しっかりと発展の歩みを進めてまいりました。

しかしながら、近年の社会情勢・社会環境に目を向ければ、少子高齢化の進展、とりわけ生産年齢人口の減少、地球温暖化などに起因する気候変動、大規模化・激甚化し頻発する自然災害、そして新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大等、私たちを取り巻く環境はより過酷なものになりつつあり、社会全体が大きな変革の潮流の中にあることを感じざるを得ません。

こうした状況を一つの背景に、市として改めてまちづくりの未来を考える中で、今後の市勢発展の要ともいべき、那須塩原駅周辺の30年後の在るべき姿、これから目指すべきまちづくりを描く『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン』を策定することといたしました。

策定に当たっては、市民参画のプロセスを重視し、各種関係団体などから推薦された市民の皆様で構成される「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン市民懇談会」において様々な視点から議論を重ねていただいたほか、まちづくりなどに関する有識者で構成される「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議」から助言をいただくとともに、2,000名の市民の皆様や30年後の那須塩原市を担う高校生の皆さんを対象に「アンケート調査」を実施いたしました。

また、初めての試みといたしまして「オンラインによるワークショップ」を開催したほか、少人数でまちづくりに対する夢や想いを語り合う「グループインタビュー」、国立大学法人宇都宮大学との「那須塩原駅周辺のまちづくりに関する共同研究」なども行い、様々な形の市民参画のプロセスの中で、那須塩原駅周辺のまちづくりに対する沢山の夢や想い、御意見、御提言をいただくことが出来ました。

このビジョンでは、30年後の那須塩原駅周辺の未来を描いております。

これからの那須塩原駅周辺が皆様御自身はもちろん、皆様のお子様や御家族にとって「夢」や「想い」が形づくられたものとなるよう、そして那須塩原市、栃木県北の玄関口として、新たな時代にふさわしいまちづくりのモデルエリアとなるよう、このビジョンの着実な実現と、駅周辺の更なる発展にしっかりと取り組んでまいります。

結びに、ビジョンの策定に当たり御意見、御協力を賜りました市民の皆様をはじめ、関係各位に対し改めて心から感謝申し上げます。
ありがとうございました。

令和3(2021)年3月
那須塩原市長
渡辺 美知太郎



市長メッセージ(動画版)
— ご覧ください —

1-1 策定の背景と目的及び目標年次

[1] ビジョン策定の背景

那須塩原駅周辺は、これまでも那須塩原市の玄関口としてのみならず、栃木県北・那須地域への玄関口として、このエリアの持つ意義・役割の重要性から、区画整理事業を進めるなど様々な施策が展開されてきました。

しかしながら、JR東北新幹線の開通(昭和57【1982】年)から40年近く経過するも思うように土地の高度利用が進んでおらず、エリア周辺に駐車場が散在することに現れているように、人々や地域の賑わいに乏しく、東京圏から1時間圏内にあるといった地理的な優位性などのこのエリアが有するポテンシャルが十分に発揮されていない現状にあります。

一方、日本社会全体に目を向けると、高齢化の進展や人口減少の流れは変わらず、那須塩原市も平成22(2010)年をピークに、今後も減少の流れが続いていくものと推測されており、こうした高齢化の進展や人口の減少、とりわけ生産年齢人口の減少は、社会構造や社会経済に多大な影響を与えるものであり、地域社会の維持継続のためにも、出来る限り早期に対策を講ずることが求められています。

また、時代の変遷とともに人々のライフスタイルも多様化してきていますが、今般の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大に伴い「在宅勤務」や「Web会議」等のリモートワークといった新たな働き方が定着しつつあるほか、国においてもDX※(デジタルトランスフォーメーション)が推進されるなど、「働き方」そのものが大きな転換期を迎えつつあります。加えて、大規模化・激甚化する自然災害を経験する中、人々の防災に対する意識は更なる高まりを見せており、安全・安心な都市構造の構築、防災力の強化といった視点は、これからのまちづくりを考える上で欠かすことのできない重要なものとなっています。

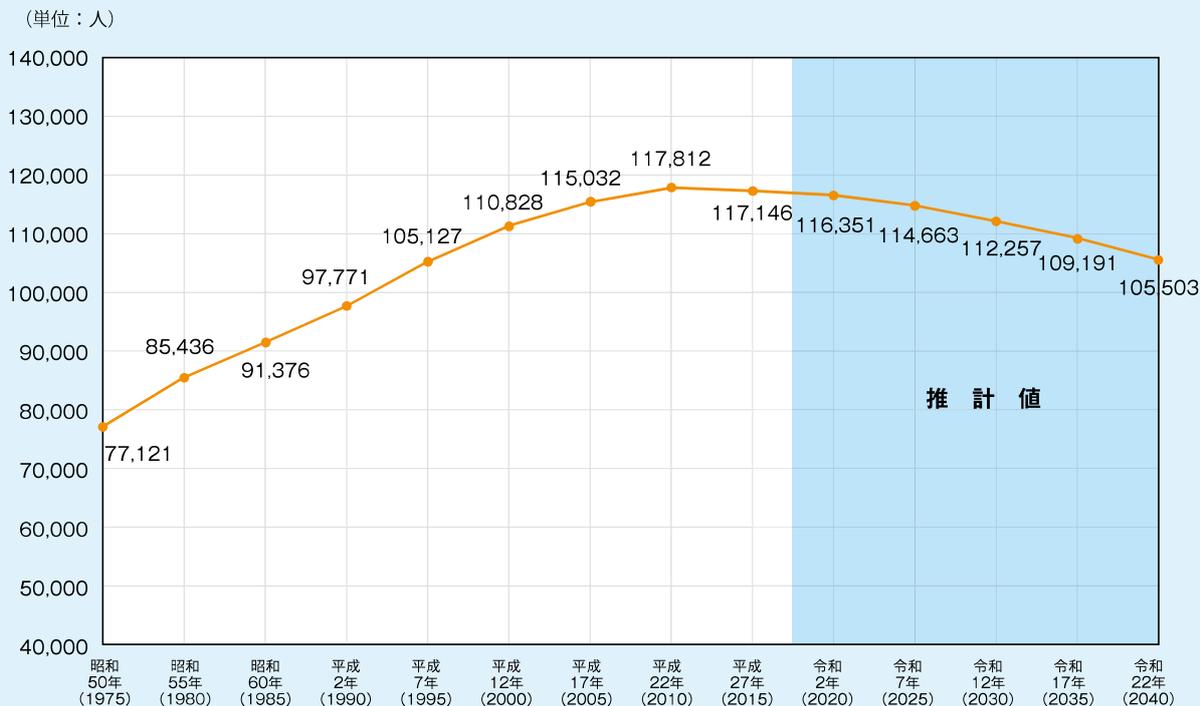
このような那須塩原駅周辺の実態、そして社会環境・時代の変革を背景に、今後、那須塩原市が持続可能なまちづくりを進めていく上で、那須塩原駅周辺の整備・開発はそのモデルとなり得るべき取組と捉え、ここに『那須塩原駅周辺まちづくりビジョン(以下「ビジョン」という。)]を描くことといたしました。

※ DX(デジタルトランスフォーメーション)

デジタル技術を活用し、ビジネスモデルや業務そのもの、組織等を変革すること。

(参考) 那須塩原市の人口の推移

那須塩原市の人口の推移と将来推計



(参考) 那須塩原市の観光客数の推移

那須塩原市の観光客数推移



[2]ビジョン策定の目的及び目標年次

今回策定するビジョンは、那須塩原駅周辺の実情を踏まえ、令和元（2019）年度、那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議において取りまとめられた『那須塩原駅周辺まちづくりに関する報告書（以下「報告書」という。）』に示された方向性を一つの指針としながら、市民参画の下、この那須塩原駅周辺を、那須塩原市のみならず栃木県の北都の玄関口にふさわしいものとしてどのようにあるべきか、長期的な視点から30年後の令和32（2050）年度を

目標年次に、その将来像を描くものです。

そして、ステップを踏みながら、このビジョンに描く将来像を一つ一つ具現化する努力を重ね、まちづくりを進めていくことにより、「1.人口減少の抑制」「2.民間企業・民間活力の誘引」「3.魅力ある市街地の形成」「4.高度な土地利用の促進」「5.新たな賑わいの創出」というような効果に結び付けていきたいと考えます。

ビジョン目標年次：令和32（2050）年度

ビジョン策定

将来像の具現化

1.人口減少の抑制

2.民間企業・民間活力の誘引

3.魅力ある市街地の形成

4.高度な土地利用の促進

5.新たな賑わいの創出

1-2 ビジョンの位置付け

今回策定するビジョンは、『第2次那須塩原市総合計画』を最上位計画としており、その中では二つの項目が掲げられています。

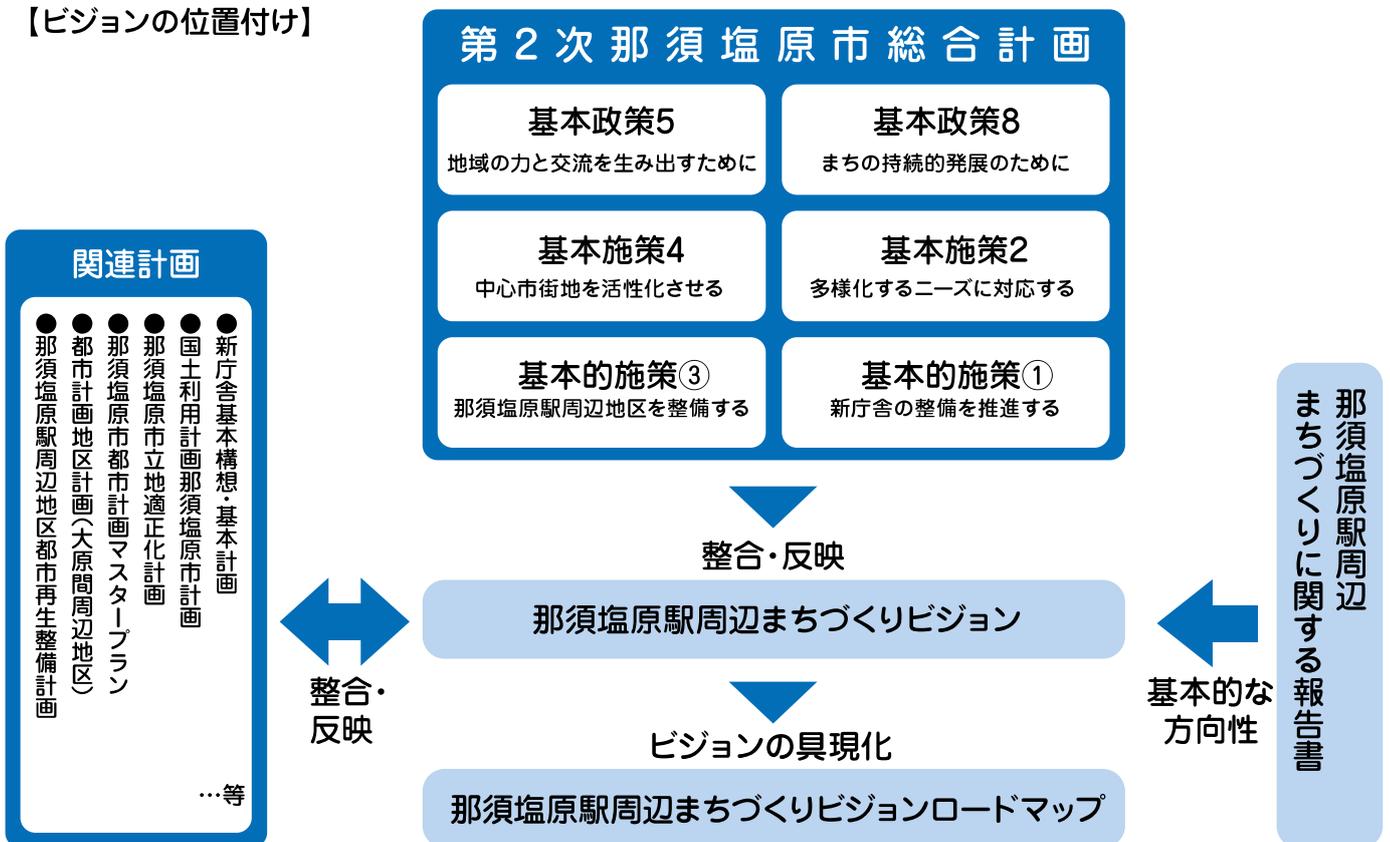
まず一つ目が【基本政策5-基本施策4-具体的施策③】において「那須塩原駅周辺の土地の高度利用の促進」という課題を解決するための取組として「那須塩原駅周辺地区の整備」を掲げています。次に二つ目として【基本政策8-基本施策2-具体的施策①】において「市民に親しまれる市役所づくり」及び「行政サービスの利便性の向上」という課題を解決するための取組として、那須塩原駅周辺整備の核となる「新庁舎の整備」を掲げています。

また、このビジョンを策定する上で、那須塩原駅周

辺のまちづくりを進めていくための一つの方向性を示すものとして、昨年度、有識者による報告書がまとめられているほか、『那須塩原市都市計画マスタープラン』をはじめ、都市整備関連の各種計画においても、このエリアが那須塩原市のみならず、栃木県北におけるその存在意義や有するポテンシャルの高さから、県北地域の玄関口・広域的な拠点としての都市機能の集積や高度な土地利用、魅力ある市街地の形成等が図られるべきエリアとして位置付けられています。

今回のビジョンはそうした関連する計画等を踏まえつつ、30年後の未来に在るべき那須塩原駅周辺の将来像を描くものです。

【ビジョンの位置付け】



2 那須塩原駅周辺の現状と課題

平成17(2005)年1月に旧黒磯市、西那須野町、塩原町の合併により誕生した那須塩原市は、合併時の協定事項に基づき、市役所本庁舎を那須塩原駅周辺に移転する計画が立てられるなど駅周辺は今後の発展が見込まれるとともに、東京圏からの玄関口でもある「那須塩原駅」は、東京圏と栃木県北地域をつなぐ交通の拠点としてのポテンシャルを持ち合わせていると考えられます。

しかしながら、現状の課題として下に示すような点が挙げられます。

こうした現状は、今回のビジョン策定に当たり行った市民(無作為抽出2,000名)を対象としたアンケート調査や市内の県立高等学校4校の生徒(約2,500名)を対象としたアンケート調査の結果にも現れております。

例えば、市民アンケートにおいて、「全体的に人や地域に活気や賑わいがあると感じますか」、「利用したいと思う店舗や施設が充実していると感じますか」という那須塩原駅周辺の印象について尋ねた質問

では、「いいえ」と回答された方が「はい」と回答された方のおよそ10倍近くに上る結果となりました。

また、高校生アンケートでは、那須塩原駅周辺が「今後どのようなエリアになれば良いと思いますか」という質問において「人や地域に活気や賑わいがあり、周辺を散策するのが楽しいエリア」や「繁華街や大型店舗など、多くの人が集まる商業施設を中心としたエリア」という答えを選択された方が圧倒的に多い結果となりました。

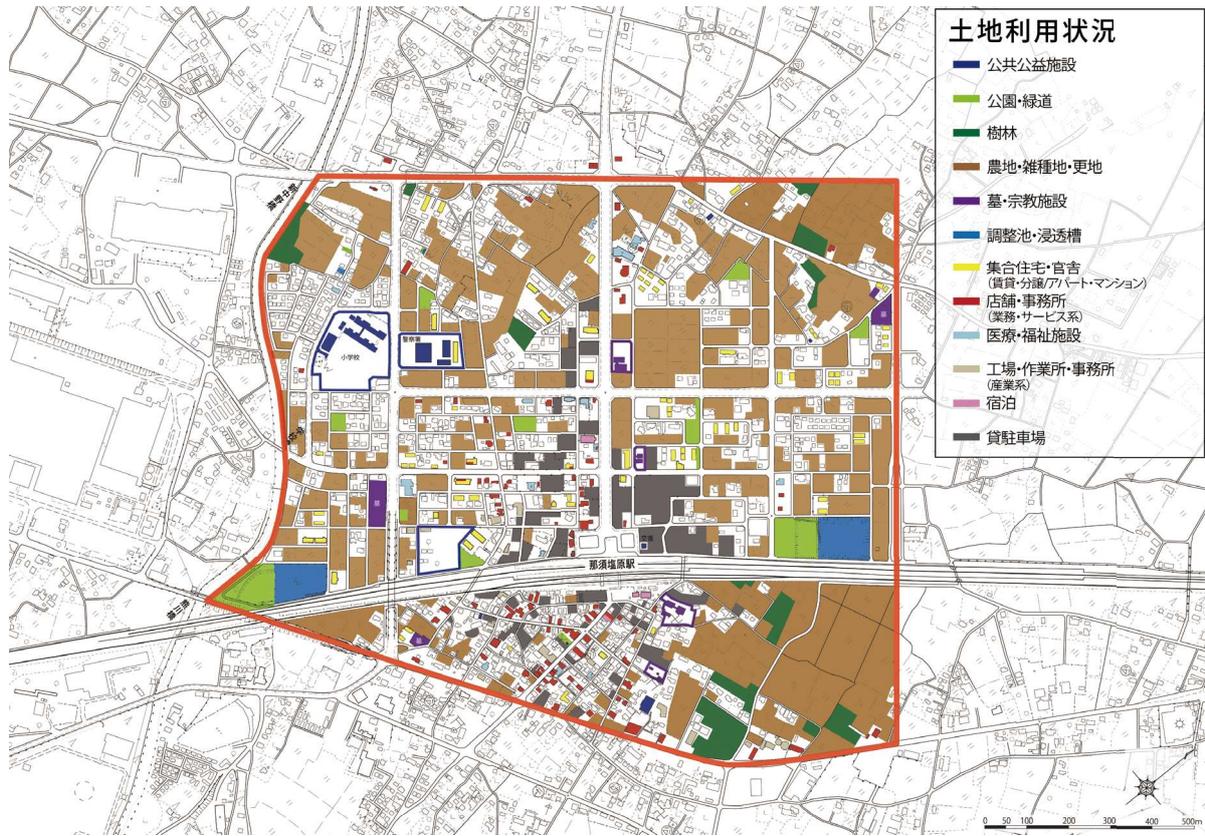
調査を通じて、年代や職業等を問わず、那須塩原駅周辺に「活気」や「賑わい」「楽しさ」等を求めていることが改めて分かる結果となりました。

今後の那須塩原駅周辺のまちづくりを進めるに当たっては、こうした現状やアンケート調査の結果などを踏まえつつ、これからの発展の可能性やポテンシャルを十分に引き出しながら、駅周辺の魅力をより高めていくことが必要であると考えられます。

現状の課題

- 那須塩原駅は観光客による新幹線利用は少なく、交通アクセスの良さを十分に活用できておらず、栃木県北地域の玄関口としての役割を十分に果たしているとは言えない。
- 駅を降りた後の二次交通も観光地への循環バスが少ないなど、利便性の低さが指摘されている。
- 土地利用の高度化が進んでおらず、駐車場としての土地利用が多くみられる。
- 商業施設や飲食店があまりなく、観光客をはじめ、駅周辺を訪れた人々の滞留や回遊を促す要因が少ない。
- 那須塩原市の玄関口としてだけでなく、栃木県北地域の玄関口であるにも関わらず、交通の『拠点』としての魅力を低下させることにつながっている。

(参考) 那須塩原駅周辺の土地利用の状況 (平成27年7月時点)



(参考) 那須塩原駅周辺の空中写真 (平成29年3月撮影)



全体的に農地や雑種地・更地が多く、また、那須塩原駅の利用者が西口に降り立った際、近くの土地では駐車場としての利用が多く見られます。